

東京厚岸会2026

笑顔で元気に再会

令和8年4月19日(日)、東京厚岸会が開催されました。

今年もふるさと厚岸町から、三浦町長、若狭前町長、早川副町長、竹田町議会副議長、宮原厚岸町社会福祉協議会会長、田辺厚岸観光協会会長、西田厚岸町商工会会長、蔵谷厚岸漁業協同組合組合長、齋藤釧路太田農業協同組合組合長、堀部役場管理職会会長、平下総合政策課長、畑山総合政策課長補佐、倉総合政策課主事のほか、「かき酒場北海道厚岸」原弘充統括店長に参加いただきました。

開会は中村武史会長の宣言で始まり、続いて三浦町長が来賓代表の挨拶と、『広報あつけし4月号』に掲載された町の状況を説明し、東京厚岸会員にとって町の現況を知る良い機会となりました。

その後、全員で『厚岸音頭』を歌い、カップに『極ミルク65』を注ぎ、若狭前町長の乾杯発声により、会食・懇談が始まりました。会場内には厚岸をテーマにした歌が流れ、久しぶりの再会を喜びながら、ふるさとについて語り合う場面が見られました。

また、堅展実業株式会社から、二十四節気の最終章となる『厚岸ウイスキー春分』の特別提供もあり、参加者は味わうことが難しいウイスキーに舌鼓を打ち、「美味しい、最高！」

と笑顔があふれていました。

来賓の竹田町議会副議長、西田厚岸町商工会会長、田辺厚岸観光協会会長、蔵谷厚岸漁業協同組合組合長、齋藤釧路太田農業協同組合組合長からは、桜・牡蠣まつりやふるさと納税、海産物の水揚げ、牛乳やアイスクリーム、厚岸ウイスキーなど、さまざまな話題提供があり、会場内には町の話題で会話の輪がいくつも広がりました。

抽選会では「牡蠣あさりセット」「極ミルク65アイスクリーム」「牡蠣ふりかけ」「厚岸ウイスキー(200ml瓶)」のほか、久保田八十巳さんから「橋幸夫さん特別CD」が賞品として提供され、参加者に喜ばれました。

宴も盛り上がりの中、宮原厚岸町社会福祉協議会会長の中締めでお開きとなり、参加者はふるさとの特産品のお土産袋を手に「また来年」と声を掛け合いながら会場を後にしました。

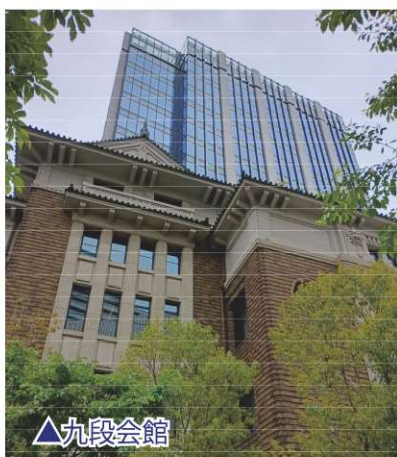
東京厚岸会は初回を小石川後楽園(江戸時代初期、水戸徳川家の江戸上屋敷内日本庭園)で開催して以来、『ふるさとを想う心』で絆を深めてきました。九段下の「九段会館」を利用していたこともありましたが、東日本大震災により建物使用が不可能となったため、翌年から四谷駅近くの会場に移し、現在に至っています。

初回から毎回参加の人のふるさとへの思いから、2017年に始めた『東京厚岸会のエゾヤマザクラを咲かせよう』の募金は今年も「厚岸町民の森植樹祭」に届けられ、ふるさとの野山で桜が咲き誇ることでしょう。東京厚岸会は、参加者の「ふるさとを懐かしく想う心」を大切にしながら「元気に通える場」としてこれからも活動を続けていきます。

(事務局長・石井龍児)



△エゾヤマサクラ



△九段会館